

大小の扉  
big and small door

a day, as a hero...



a day, as a man ...

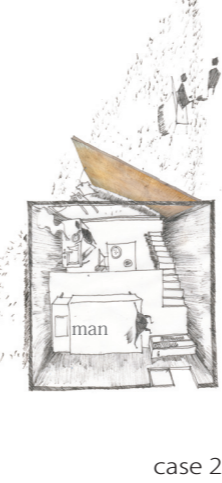
出入口としての扉

大道芸人は、大きな姿のまま家へ帰って行きます。大きな扉は、単なる出入口という意味だけでなく、子供たちのヒーロー像を守るための装置でもあります。



生活の中の扉

吹き抜けとからみあいながら展開される生活は、小さな家を少しだけ大きく見せます。吹き抜けと隣り合う扉の開閉が、内部の空間を大きく規定します。



大道芸人の家  
house for a street performer

小さいころ親に連れられて行った大道芸大会。そこには胴と顔は普通なのに、足だけ長い、何かの物語から飛び出してきたような人がたくさんいた。彼らは僕に、たくさんの笑顔くれた。大道芸人。彼こそが、僕の幼いころのヒーローだった。

そんな彼らの家はどんなものなのだろう...  
彼らが家に入るには大きな扉が必要だ。

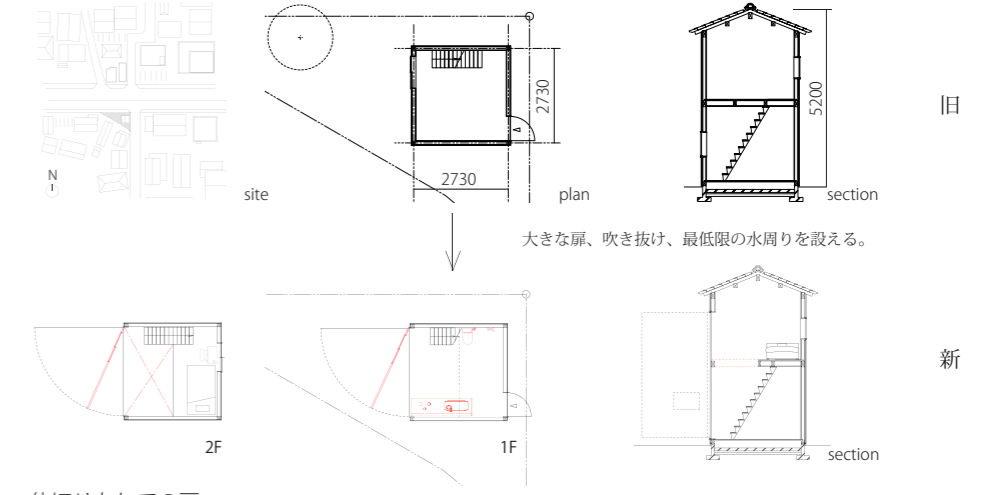
- theme -



既存環境



選んだのは長野市の市街地に位置する物件。車通りの多い道に面している角地の一戸建てで、三角形の小さな庭も備えている。2730 mm×2730 mmの平面を持った非常に小さなシェルターは、言うなれば、最小限の庭付き一戸建てである。しかし、現在は持ち主の物置として使われ、町の中で影を潜めている。



仕切りとしての扉

壁一面の扉を大きく開けます。1人で練習をするとき、道に対して目隠しとなる扉は、同時に小さなたまり場を作り、そこで小さな発表会が行われる舞台装置となります。



case 3